

マルセイニュース 6月号

発行日 2015/6/23

株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 TEL 0146-22-5123



6月14日(日)。前日の雨で一日順延された浦河小学校(児童数153名)の運動会が開催されました。史上初！赤組と白組が同点優勝だったそうです^^

大運動会が終わると初夏です！



浦河町制 100周年

さわやかな初夏を迎えています。『ルピナスの丘』に咲く色とりどりのルピナスの花を今年も楽しませていただきました。夏いちご「すずあかね」の出荷も始まり、生産農家の方々は早朝から収穫作業に忙しい日々が始まっています。一番牧草の収穫も今年は早いようですね。海の方でも、間もなくこんぶ漁が始まります。海も山も、どちらも天候に恵まれて豊作、豊漁でありますように。

町制100周年を迎える浦河町では、これから様々な記念行事やイベントが予定されています。今年の『浦河港まつり』には浦河小学校6学年が初出店！当日に向けて準備が進められていますが、これってすごいことかも。今から楽しみです。

マックス



上の写真の色の他に、黄色や水色、白など豊富な色があるルピナスの花。

花の様子がフジに似ていて、下から咲き上がることからノボリフジ(昇藤)とも呼ばれます。花が終わった後にできる種からもわかるように、マメ科の植物です。蒸し暑いのが苦手な比較的冷涼な気候を好み、痩せた土地にでも堂々と見事に咲きます。北海道にむいていますね^^

ルピナスの写真提供 浦河町地域おこし協力隊 中川 貢さん

1. 静かに景色を眺めている人、写真を撮っている人、仲間とお茶を楽しんでいる人。ルピナスの丘に出かけると、必ず誰かと出会いました。



働くことと生きることが、重なるように働きたい 小商い研究会(SB研)継続中です

女性も増えてきました。SB研(スモールビジネス研究会)には、ポツリポツリと新しい仲間が加わっています。



6月4日(木)。第14回目の「小商い研究会」を開きました。今回の参加者は10名です。商いの勉強会ではあるのですが、参加者の職種は様々です。わたしのような先代から引き継いだ後継者や自分で事業を始めた社長といった自営業者。その他、組織に勤務しているけれど自分の成長に役立てたいと思っている方など、もいっしょに勉強しています。

「小商い」も 組織に属さず働く人

ずいぶん昔になります。本のコーナーで『フリーエージェントの社会的到来』(ダニエル・ピンク著)という本を紹介したことがありました。十数年前のアメリカのころですが、当時すでに、労働人口のうち「4人に1人」がフリーエージェントであると著者は書いていました。組織に属さない専門的な技術者、フリーのデザイナーやマーケティング、小さな会社を興す人などが約25%いるとありましたが、おそらく今ではもつと多いのではないのでしょうか。

日本では自営業者は減り続けていて、二十年前くらいと較べ半減してしまいました。起業する人は、先進国の中で、もつとも少ない部類なのだそうです。

働くことと生き方が 重なるような生き方を



「試作した無添加ハムを試食して下さい」とマイクさん

それでもわたしは、これからは「小商いの時代」が来ると思っています。企業がますます人を雇いたがらない世の中になる、という残念な理由もありますが、それだけではありません。

働くということと、生きるということができるだけ重なるように生きたいと考える人が、増えていっているからです。この「小商い(スモール・ビジネス)研究会」に参加している人たちが接している、そう思います。良い仕事をする、ことや優れた商品を生み出すこと、お金も入ってくるわけですが、それ以上に、良い仕事を提供して良い人生を送りたいと一人一人が思っているのです(もちろん儲けも必要！)。毎月のことですが参加者の話を聞いて、わたしもたくさん刺激を受

小山直

SB研は、原則毎月第一木曜日午後6時〜9時まで、生涯学習センターを会場に開催しています。(無料)
7月は2日、8月は6日の予定です。

資格取得に忙しかった気田くん



資格証も届き、「ホッとしました。」と喜んでいる気田くん。次に受験するのは何の試験かな？

★合格です！

昨年11月に危険物の資格を取得した気田くん。今月は「高圧ガス保安協会調査員」と「石油燃焼機器技術管理士」の、二つの資格を取るために札幌に出張して受験しました。

マルセイニユースで紹介する講習会場の写真を撮って欲しいとお願いしたマックスに、真面目な気田くんがスマートフォンでメールで送って来たのが右の写真。この会場で終日缶詰め状態は、しんどかったねー。笑
恵庭市で開催された。パロマ学校にも参加。修理の勉強をしてきました。次は、7月の苦小牧ですね。頑張れ、気田くん！



新しい収集運搬車デビュー 大切に乘っています！



「次に紹介される新しい車輛を楽しみにしています！」とお便りをいただきました。ありがとうございます。どうでしょう。ピッカピカに輝く中古車です。以前のダイナくんは、生きるのに必死なカラスタたちが網の目にくちばしを差し込んでごみを引き出すという悪さをしたものでした。でも、今回はそれもできません！器用な英司くんが、キョウちゃんこと気田君と一緒に施した手仕事の細工は、小さなスズメだつて入り込む隙間がありません。苦労して付けたゴムシートも雨対策にバッチリ！みんなで大切に乗りま



ひとりで悩んでいませんか？ 暮らしの“ちょっとした困りごと”のお手伝い くり返しご利用いただいています！



平気な様子の若者たちは、週末の休みを利用して登山をしたり仲良く釣りに出かけたりと実に元気がいっぱい！ 一生懸命に仕事をこなし、終末の休みを楽しそうに過ごしている姿から、社長は元気を分けてもらいながら頑張っています。

大型家具の移動や物置の中の片付け仕事などでは、若者たちが大活躍！ そのパワーに助けられながら社長もうーんと頑張りました。でも、翌々日には筋肉痛と腰痛が！（笑）

「いつものように、草取りとごみの処分をお願いしますね」と、毎年定期的にご利用くださるお客様からのご依頼、ありがとうございます。お花のきれいな季節ですね。♪「お花の終わった後にクリーンレディたちと一緒に過ごすお茶の時間は、つつい話が弾みます♪（そして、お菓子もすすんでしまうのです。いかんいかん…。これも、私たちが大きくしてしま原因のひとつです）」

さわやかな初夏を迎え、暮らしの中の小さな片付け仕事のご相談をいただいています。私たちにできる“ちょっとした困りごとのお手伝い”を、どうぞお気軽にご利用ください。



タイミングを逃さずに灯油タンク交換 底が抜けてしまうとタンク内の灯油が！

先月は脚の部分が腐って折れてしまったホームタンクの交換工事でした。今月は、底の部分も劣化しているタンクの交換工事です。海のすぐ前にあったホームタンクでしたが、交換を機会に住居反対の山側へと移設しました。これで、今までのような潮風の直撃は避けられそうです。

気がつくとも海岸方面にあった当社のタンクも、底部分の傷みがひどく今にも底が抜けてしまいうつかり見落とすところでした。サビの具合に驚きました。



傷み具合も様々ですが、当社のホームタンクの底が、こんなに錆びていたなんてびっくりでした。もしもホームタンクの下に油が滲んでいたなら赤信号です！



劣化の具合を
点検しましょう

潮風による塩害は車だけではなくありません。海から強い風が吹いたあとには窓ガラスが白く曇ってしまうほど、海辺にある当社の事務所は塩だらけ。灯油タンクも同じなわけです。



灯油タンクのチェックポイント

サビ・水



※ご注意！
お宅のホームタンク、こんな症状出ていませんか？

タンクゲージの破損



パイプの破損



ストレーナーの汚れや破



内部の傷みは タンク洗浄が効果的です！

◆フィルターの变色は
タンク洗浄のサインのひとつ

ホームタンク洗浄

タンク洗浄料金 5,400円（税込）

（フィルター交換を含みます）



ホームタンク内部にはサビや水が溜まっています



テーマは「浦河の人とともに過ごす自分」

浦河小学校6学年クロスカリキュラムの取り組み



港まつりに参加しよう！と浦小6学年が興味深い授業に取り組んでいます。「人と、どう関わりをつくって生きていくか」という生き方を考えるキャリア教育カリキュラムを通じて自分たちで商品開発をし、8月の港まつりで販売するという総合体験学習です。子どもたちは地域の様々な業種の人と出会いながら考え、企画し、港まつりの出店に向けて準備を進めています。もしかして、これって小学生による“小商いデビュー”でしょうか？ 何だか楽しいですね^^

5月には役場の水産商工観光課の長崎哲之さんから、港まつりについて学びました。

4月からスタートして、9月末の最終報告会をもって終了するカリキュラム。4月は、浦河は自分たちにとってどんな町だろうか？ どんな産業があり、どんな人たちがいて、どんなイベントがあるのだろうか？とオリエンテーションを実施しました。自分たちの手で浦河を盛り上げる方法を！と考えた結果、浦河の大イベント、港まつりに参加しよう！と決定！



自分の住む町の人と関わり自分たちはどうやって町を盛りあげることができるか

6月9日(火)。浦河小学校6学年の授業を見学させていただきました。この日の社会科の授業、講師は日高信用金庫の若林豊さんです。「お金ってなに？」と、お金には①交換の手段②ものやサービスの価値をはかる尺度③価値を貯めておく手段という3つの役割があるとわかりやすく伝えていらしかったです。



地域おこし協力隊の加藤エミさんからは、食に関する商品開発について学習。続いてアドバイスを受けながらベジフルポンチ、ポテこん、米粉ドーナツ(昆布入り・なしの2種)をつくり、みんなで試食しました。ここでは日高報知新聞さんなどマスメディアから取材を受ける体験もしました。こうして次々と地域の人と関わりながら新しい体験をしています。

総合的な学習の時間を核に、家庭科(生活と食育)と社会科(わたしの暮らしを考える政治)を相互に関連づけながら、担任の奈良崎功先生と23人の6年生が取り組んでいる総合学習のテーマは、「浦河の人とともに過ごす自分」。なんだかワクワクしますが、この日のお金について学んだ授業もその一環なのです。

港まつり当日は、よりたくさん町の人の出合いが待っていますね。8月15日が今からとても楽しみです。

販売する商品も決まり、PRの仕方や企画書づくりにも取り組み中ですが、小学校生活最後の運動会も終了して次はいよいよ資金集めです。大通り商店街の方々のところを回り、協賛店から出資金を募ります。港まつり出店者会議にも2名の代表が先生と出席します。7月には楽しみながら、港まつりの出店に向けて準備はいよいよ大詰め。浦小6学年、頑張ってください！



他の学年の子どもたちも、ここから学ぶことができますね。学校内に設置された「港まつり出店への道」という掲示コーナーです。



マックス



『蹄なくして馬なし』装蹄師の仕事

カフェマスター 装蹄師：田中駿(すぐる)さん

6月11日(木) 東町ふれあい会館 19:00~21:00 参加費500円

日高の一大産業である軽種馬生産。競走馬が実際に競馬場で活躍するまでには、実に多くの役割の人が携わっています。競走馬の命とも言える蹄をケアする装蹄師もその一人。26名の参加があった第30回の地域デザインカフェには、装蹄師・田中駿さんにカフェマスターとしてご登場いただきました。田中さんは競走馬牧場の跡継ぎでもあります。今回は「蹄なくして馬なし」という言葉があるぐらい大事な「蹄」をケアする装蹄師の仕事について、そして競走馬牧場の跡継ぎとしての想いをお聞きしました。

「真っ白です」と大変緊張していた田中さんでしたが、終始笑い声の絶えないあったかい場になったのはマスターの人柄でしょうか。馬の蹄の断面図などに、削蹄並びに装蹄についてわかりやすくお話をしてくださいました。今回は日頃乗馬をされている方や生産牧場の方、乗馬施設の方なども参加されましたが、田中さんの話を聞く中からそれぞれ新たな発見があったようでした。



実際に使用する道具も持参。実演もしてくれました。

装蹄師の仕事は大きく「削蹄(さくてい)」と「装蹄(そうてい)」の2つに分けられます。削蹄は文字通り、伸びてくる馬の蹄を削り、手入れする仕事です。装蹄は馬の靴でもある蹄鉄を釘を用いて馬の蹄に固定する仕事。生産地である日高では馬が蹄を履くことは少ないため、削蹄が主な仕事になるそうです。

削蹄と装蹄

馬が相手の仕事のように 人との関わりが 一番大事だと思う

今回のデザカフェにあたって先輩装蹄師さんからたくさん道具や蹄を借りてきてくれた田中さん。「装蹄師は馬が相手の仕事のように、実は人との縁や関わりが一番大事だと思っています。」と話していました。装蹄師として各牧場を訪れることを通じて、牧場の跡継ぎとして家業を手伝うだけでは見えてこなかった発見が日々あるそうです。



「自分たちの代に変わったときに、今のままではいけないと思う。生産牧場としてもファンサービスなどを行わなければいけないと思うし」と語る田中さん。

浦河の基幹産業である「馬」産業も次世代の担い手の方々は新たな展開を考えています。

うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会

村下知宏



浦河町地域おこし協力隊
加藤エミさん

■(蹄鉄風)どら焼き (15個くらい)

【材料】 薄力粉…120g 重曹…2g 全卵…2個
上白糖…50g みりん…小1 蜂蜜…小1

【作り方】

- ①全卵に上白糖、みりん、はちみつを入れて、もったりするまで泡立てる
- ②粉類を合わせてふるい①に一気に入れて、ゴムベラでぐるぐる混ぜる(かさが半量くらいになります)
- ③半日冷蔵庫で寝かし、ホットプレートの160℃~180℃くらいでホットケーキを焼く要領で焼く(蓋をしながらかきとります)

【ずんだ餡】 枝豆300g(豆の部分のみ)・上白糖40g・塩 適量
枝豆をゆでて薄皮をむき、すり鉢かフードプロセッサでペースト状につぶす。砂糖と塩で味を整える。(お好みで増減して大丈夫です)
※今回はホイップクリームにずんだ餡を混ぜた、ずんだクリームを挟みました。



ずんだは牧草をイメージに、Uの字の形に包んだら焼きは、「装鉄」を表現してみたそうです ^^

最近読んだ本の中より…

『ス。バゲティーの年に』

村上春樹著

1971年、それはスバゲティーの年だった。1971年、僕は生きるためにスバゲティーを茹でつづけ、スバゲティーを茹でるために生きつづけた。アルミ鍋から立ち上る蒸気こそが僕の誇りであり、ソース・パンの中でクツクツと音を立てるトマト・ソースこそが僕の希望であった。

(本文より)



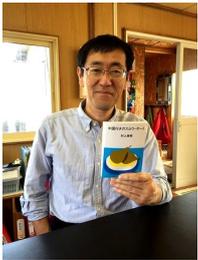
この10ページにも満たない短い小説は、『カンガルー日和』という村上春樹氏のごく初期の作品集に収められています。1983年秋に出版されていますが、読んだのは85年〜87年のどこか。二十代後半のときでした。

当時、わたしは札幌の印刷会社で印刷工として働いていました。仕事は、大変でした。今でもわたしは肥満体型ではありませんが、それでも体重は70キロ近くあります。印刷工のときの体重は、55キロでした。一日中、工場内で肉体的労働をしていたのでものすごくお腹は空しくし、よく食べました。それでも、肥る間がないほど仕事は忙しかった。

このころわたしが痛切に欲していたのは、本を読む時間でした。

それは人生で初めて経験することでした。本が読めるということは、ぜいたくなことなんだなと思ったりもしました。とにかく、一日5分でも本が読みたいというのが切実な気持ちで、地下鉄の車内での12、3分が貴重な読書の時間でした。

印刷工時代に読んだ本は、おそらく10冊にも満たないでしょう。お金がなかったので、もっぱら図書館を利用していました。最初は山の手図書館と中央図書館、引越してからは澄川図書館からいつも本を借りていましたが、読み切った本はほとんどありません。そんな中で最後まで読んだ数少ない本が、『カンガルー日和』と同じ村上春樹の『中国行きのスロウボート』でした。



「スバゲティーの年に」は、スバゲティーを茹でて食べ続けているだけの男の話です。男は日曜日から土曜日までスバゲティーを食べ、それが終わるとまたスバゲティーを食べる次の一週間が始まります。春、夏、秋と男はスバゲティーを食べ続けタマネギやニンニクの匂いと鍋からの蒸気が生きる空間のすべてを支配しています。

この描写がわたしには、言いようもないほどリアルに感じられたのです。朝7時ころから夜の11時ころまで、印刷機に白い紙を積むだけの仕事。轟音の機械が止まるまで一歩も工場から出ることがない。インキとパウダー（印刷物がくっつかないため）にまみれて一日が終わると、すぐに同じ一日が始まる…。このスバゲティーを茹でる男と自分はなんら変わらないうと、理屈抜きにわたしは思ったのです。

冬、男には在る女性から頼み事の電話が来ますが、スバゲティーを茹でているからとにべもなく断ります。わたしもあの頃、あらゆる誘いを断っていました。紙を積んでいるから、とでも言うように。



わたしにとって村上春樹は『ノルウェーの森』でも『1Q84』でも『海辺のカフカ』でもありません。『ス。バゲティーの年に』を書いた人で、人として信頼していると言いますか、好きなのです。

社長

「浦河」に、また来ます！

この冬テレワークで滞在していた平木陽子さん(漫画家「ひさわゆみ」として少女漫画をてがけていらっしゃいます)が、千葉県からご両親や友人の方々と一緒に再度の浦河短期移住。「私だけ先に早く帰りますが、みんな滞在期間数日にしてすでに、とっても自由に楽しんでいます。」と皆さんでマルセイに立ち寄って下さいました。



6月4日。大きな道外ナンバーの車輛に乗った6人のお客様がマルセイへ。一緒にお茶の時間を楽しみました。

荻伏の体験移住住宅一棟を借りての共同生活。楽しんでいきますか？と質問してみると「もちろん！」と満面の笑顔が返ってきました。

前日はウニとツブを購入して、海の幸を存分に楽しんだとのこと。おいしさはもちろん、カラ付きのウニから身を取り出す体験がとて楽しかったそうです。



滞在先に近い荻

伏農協さんにお

物に出かけると、

「平木さん！来ま

したよ」と声を掛け

られました。テレ

ワークで滞在した

時に体験ボラン

ティアとして参加し

た託老事業「愛の

会」で出会ったスタッ

フの方々でした。な

んでも、自治会で、平木

さんたちが来る

という連絡が先に回覧

で回っていたよう

です。

近所を散歩した時に見つけた大きなきのこ。見つけた人が他の人を連れて、大勢でまた見学に出かけたところ、その家の方でしょうか。きのこの周りの雑草が刈られていて、きのこが見やすくなっていたそうです。感激されていました。荻伏地域の「おもてなし力」、聞いてびっくり！すごいですね。

「いよいよ帰りますが、また来ます！」と帰る前日の13日にも立ち寄って下さったみなさん。リピート率の高い浦河町の体験移住の陰に、見えない地域の方々の「おもてなし力」あり！ですね。

マックス



なんだか豪華に見えちゃいますっ！

ガスを使っておいしくクッキング



魚肉ソーセージで「えびマヨ風」

安い食材でおいしくできるのが魅力！以前好評だった蒲焼き風、エビチリ風に続いて、今回は魚肉ソーセージがまるでえびマヨのように変身するのでびっくりです。揚げたソーセージはふっくらとして予想以上においしかった〜♪



●材料(3人分)

おさかなのソーセージ 2本
(85gのものを使用)
絹さや 15本くらい
(他の青色野菜でもOK！)
片栗粉 大さじ1.5~2



★ コンデンスミルクって、どうしてあんなにおいしいんでしょう〜。LOVE♥

★ マヨネーズ 大さじ3
ケチャップ 大さじ1
コンデンスミルク 大さじ1
粉チーズ 大さじ1

●作り方 (参考レシピ クックパッド ドキたん)

- 1、絹さやは筋を取り、色あざやかにさっとゆでる。
(スナップえんどう、ブロッコリー、アスパラなどもOK)
- 2、おさかなのソーセージは、1本を8等分に切る。
(厚めに切ることで、ふっくらしておいしい)
片栗粉をまぶしてカラッと揚げる。
- 3、ボウルに★の調味料を入れてよく混ぜ、1の彩り野菜と2のソーセージを加えて混ぜ合わせ、お皿に盛り付ける。
ほ〜ら、魚肉ソーセージがおいしそうなおかずに変身！
お好みで「一味」や「豆板醤」などを加えてピリ辛味にしてもおいしかった！



先月とは違って変わって大満足♪おいしい食事はみんなをこんなに笑顔にしてみましたよ。ほら、ご覧のように笑顔いっぱいの試食会は、並んだお皿全て完食！いや、みんなでおいしく食べたねー！

魚肉ソーセージがおいしいんです。こどもはもちろん、別皿で仕上げにちょっと「一味唐辛子」を振ったら、お父さんだって大喜びしそうです。もちろん、お弁当のおかずにも役立ちそうな一品です。季節の新鮮でおいしい緑黄色野菜をたっぷり添えて、ゴージャスなおかずにして下さい。今日は、ビバ！魚肉ソーセージ♥

♡ 大満足の試食ランチ ♡

| 試食した人 | 今日の料理は★いくつ？(最高得点 ★3個) |
|----------------------------|--|
| (株)マルセイ 小山社長 (2.8) | ★★★ 今回俺は、高得点になると思ったよ。 悔しいから2.8にしたけど…うまいわ！ |
| (株)ユートライン 村下社長 (3.0) | ★★★ 先月レシピなしの料理にトライした小山社長を見ながら…「レシピがあると違いますね」。 |
| キョウちゃん (3.0) | ★★★ ピリ辛味の方もおいしいですね。 |
| マックス (3.0) | ★★★ うまっ！ソーセージはソーセージなのにね〜 |
| ばわふる (3.0) | ★★★ 先月の反動でとつてもゴージャスに美味しい |
| さっちゃん (3.0) | ★★★ お弁当にも良いおいしさですね〜♥ |
| おかん (3.0) | ★★★ 家計に優しくて、しかもおいしいレシピですね |



大皿にずらりと並んだおかずですが、みんなでペロリとたいらげました^^

社長のちょっと長いコラム

「遙かなる山の呼び声」

山田洋次監督の、民子(たみこ)三部作を見ました。主役の民子は、倍賞千恵子。第一作は『家族』で、昭和45年大阪万博の年の映画です。長崎の島を出て、新天地を夢見て北海道の中標津まで行く家族の旅路を描いています。この映画、たぶん大黒座さんかセントラルで観ているのだと思います。ただ家族が列車で旅をする映画だということしか憶えていなく、一度きちんと見てみたいと前から思っていました。

これは好きな映画だと思いました。テレビで放映されることもあったからご覧になった方も多いでしょうが、見ていない方にはお勧めします。昭和45年(1970年)は、こんな感じだったかとあらためて思いました。若い方には、『三丁目の夕日』よりこの映画の方が昭和の空気がよくわかると思います。倍賞千恵子が葬儀のとき髪飾りを着けているシーンだけ、この場面見たことある!と思いましたが、あとは何も憶えていませんでした。傑作ですよ。



シリーズ第二作は、『故郷』です。二作目なのですが時間はさかのぼります。北海道へ移住する前の民子一家の話で、舞台は瀬戸内海の小さな島です。夫婦は古い小船で石を運ぶ生活をしているのですが、おそらくこういう仕事をしていた人がたくさんいたのでしょう。過酷で危険な仕事です。山田監督はこの仕事を記録として残しておきたかったのかもしれない。三作の中でもっとも地味な作品でした。

それにしても、祖父役の笠智衆りゅうちじゅうは素晴らしい。見入ってしまいます。笠智衆の芝居って、正直わかりませんでした。もちろん人と会話するときは、笠智衆はいいねーと、通ぶってましたけどね。今回は本当に良いなあーと、思われました。

渥美清もなかなか良いです。ちよい役で出るときの渥美清が好きです。『砂の器』の映画館主とか、『幸せの黄色いハンカチ』の新得署の刑事とか好きなんです。この三部作も全部に端役で登場しています。

三作目が、『遙かなる山の呼び声』です。北海道へ移住して十年後の民子は、夫と死別して子どもを育てながら酪農をしています。過酷な労働の日々を送っているところに、ひとりの男が現れます。高倉健の登場です。子役は吉岡秀隆なのですが、なんとも情けない感じで良いですね。

当たり前すぎて書くのも恥ずかしいのですが、高倉健がホントにいい男なんです。高倉健は同じような役(演技)しか出来ない、しないという人もいますが確かに、『幸せの黄色いハンカチ』でも『駅』でもこの作品でも、同じような役柄ではあります。でも見ていて思ったのですが、こういう男は多くの老若男女がむかしは大好きだった。口べた、不器用、言い訳しない、人を出し抜かない、忍耐強い、思いやりのある男が魅力的で、人としてもすばらしいと多くの人が思っていた時代に高倉健がいたのでしよう。そういう人柄が世の中でさほど評価されなくなるとともに、高倉健も銀幕から遠ざかっていきました。

さて、次は『幸せの黄色いハンカチ』をもう一度と、倍賞千恵子のデビュー作『下町の太陽』を見ようかと思えます。



さのぱわふる日記



ひよんなことから歯科口腔チェックをする事になった私。もともと歯と骨は頑丈に出来ていて、前回、歯医者に行った時も特に治療する歯はないです。と言われていたので今回も大丈夫とたかをくくっていた。ところが、いきなりの抜歯という展開に。心の準備もないままに抜歯宣告とは悪夢としか言いようがない。歯石を取ってもらっただけでも恐怖で体に入力が入り緊張しまくっていたのにこれから歯を抜くなんて大丈夫なの私。いよいよ先生が来て「大きい歯だからね、頑張ろうね」と優しく励ましてくれた。

まず、麻酔をかける痛みでビクつき、硬直する私に「あ〜ごめんごめん今のは痛かったね」と先生。普通の大人なら、痛みの中に入らない痛さだと思われる。がしかし、私には痛い。

耳元で聞こえるギシギシという音で恐怖がマックスに。診察台の上で痛くもないのに手と足を上げてしまった。左目から涙がツーツと流れ先生の手に当たったのか、「泣いてるね、歯医者はイヤだよ、みんな泣くんだよ」と優しい先生。でも、なかなか抜けず、少しづつ削りながら抜く手段に。

どれだけの時間が経ったのか、やっと抜けて、先生から「終わったよ〜大変だったね。僕も大変だったわ。止血するまでガーゼを噛んで休んでいてね」と。しばらくして先生が様子を見に来て私を見るなり「怒ってる?」と言うので、「怒っていませんけど、先生、疲れましたね」と言ったら、「僕も本当に疲れたよ。親知らず抜くより大変だったよ」と。そして私、「このあと何か食べてもいいですか?」この質問を治療中に3回尋ねた私です。

だって、朝は小さいパンを一つ食べただけでお昼も食わず、この悪夢が終わったのが夕方の4時。

会計をして薬を取って食事にありつけたのは5時半でした。麻酔が効いているうちにバクバク食べたのはいうまでもありません。

発行 株式会社マルセイ

灯油・プロパンガス販売・機器修理
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

夏季期間(4月~10月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~5:30土曜3:00



編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3400部

【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com

【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してみてください

〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3

TEL 0146-22-5123 FAX 0146-22-5789